

会 議 録

1 会議名

平成30年度第3回安塚区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

1) 協 議（公開）

（1）平成30年度上越市地域活動支援事業（安塚区）の審査について

ア．全体審査

（2）安塚区地域協議会としての審議内容について

2) 報 告（公開）

なし

3) その他（公開）

3 開催日時

平成30年5月17日（木）午後7時00分から午後9時15分まで

4 開催場所

安塚区総合事務所3階301会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

・委 員：池田嘉久、石田ひとみ、數井憲一、國保信夫、小松光代、中島勝義

中村真二、長谷川直樹、秦克博、松苗正二、松野等、山岸重正

・事務局：安塚区総合事務所 市川所長、大橋次長、横尾市民生活・福祉グループ長

（併教育・文化グループ長）、國保班長、仮澤主事

8 発言の内容（要旨）

【大橋次長】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の

出席を確認、会議の成立を報告

- ・会議録の確認：数井憲一会長

【数井憲一会長】

- ・挨拶

協議事項（１）平成３０年度上越市地域活動支援事業（安塚区）の審査について説明を事務局に求める。

【仮澤主事】

今回、安塚区の地域活動支援事業の提案は１２団体、補助希望額の合計は８４３万円、安塚区の配分額に対して３２３万円多い状態である。

一昨日１５日（火）の第２回安塚区地域協議会においてプレゼンテーションを行い、委員の皆様から全１２団体の提案について採点していただいた。採点結果については、本日、資料として配布させていただいた資料№１「採点結果一覧」のとおりである。それでは、資料№１「採点結果一覧」をご覧ください。

まず、基本審査について、提案事業が「地域活動支援事業の目的と合致しているか」を確認するものであるが、適合しないとした団体については、以下の採点はしないことになっており、平均点を算出する際は、その採点者を割り返す人数に加えて集計した。

続いて、共通審査について、①公益性、②必要性、③実現性、④参加性、⑤発展性の視点により５点満点で審査を行っていただき、その平均点が記載されている。

安塚区では共通審査基準の平均点が１５点に満たない場合は不採択とすることになっており、「柳葉ひまわり２００万本記念」事業、山のうえフリーペーパー事業、安塚音楽祭事業が平均点１５点に満たなかったため、不採択の扱いとなる。全提案事業の補助希望額の合計８４３万円から、不採択となった事業の補助希望額を差し引くと５８４万円となり、安塚区の配分額に対し６４万円多い状態である。これから今一度、採択基本方針や共通審査項目と照らし合わせ、１事業ごとに採択の可否、補助金額、付帯意見の有無について協議をお願いします。また、特記事項等の欄には、記載のあった意見等を転記してあるので、協議の参考としていただきたい。

【数井憲一会長】

今ほどの説明でもあったが、共通審査基準の平均点が１５点以上のものを審査することになる。１２団体のうち、１５点に満たないものが３団体、１５点以上のものが９団

体あり、9団体の事業について採択の可否を諮った後で、特記事項等を参考にしながら、補助金額についても協議していきたい。

【中村真二委員】

15点に満たないものは審査しないということか。

【數井憲一会長】

そうである。

【中村真二委員】

そうであれば、異議がある。

15点に満たない3団体の事業についてであるが、音楽関係等、比較的若い方からの提案である。この地域の中で若い人が生き生きと住み生活してもらうためには、ある程度は若い人の考えや音楽イベントについて考えていくべきなのではないか。よってもう一度審議をするべく考え直した方がいいのではないか。

【數井憲一会長】

今ほど中村委員より意見があった。私としては、中村委員からの発言の状況を踏まえた上で委員個々に事業を審査した結果がこの採択結果一覧であると考えている。他の委員から意見を聞きたいと思うがいかがか。

【長谷川直樹委員】

私は以前、審査の前に少し採択について話し合いをした方がいいのではないかと提案をしたが、会長から審査した後で話し合いをしてはどうかという提案があった。

採択方法については、15点に満たないものは不採択という採択方針を決めており、それで委員の皆さんが納得して審査したのであるから、今の段階では変えることはできないと思う。審査の方法として、委員の皆さんの中で話し合いをした上で採点をしてこういう結果になったのであれば納得できるという方法もあるが、今回は話し合いをしないで採点することとした。今回は、結果が出てしまっているのに、審査基準を覆すのは無理があるのではないか。

【石田ひとみ委員】

難しい問題であると思う。

地域協議会委員の中には、提案事業に関わっている方もいらっしゃると思う。自分が関わっている提案事業を少しでも採択したいと思えば高得点をつけるだろうが、最初に

15点未満は不採択とする決まりを作った以上、そうすべきと思う。若い人のこれから地域を盛り上げていくという気持ちを汲んで、今回は不採択となったけれども、来年度はもう少し計画を練り直して採択となるよう頑張ってくれという助言をしていった方がいいと思う。

【松苗正二委員】

15点未満は不採択とすることは決まっていることなので、変える必要はないと思うが、募集要項の中に15点未満であっても採択金額の総額が配分額に達しない場合は採択するという内容もある。まだ配分額に達するかどうか分からないので、その後で15点未満のものについて考えてはどうか。

【數井憲一会長】

今2通りの意見が出た。石田委員の方から点数が15点に満たなくても提案団体になんらかのフィードバックをしてはどうかという意見があったが、それについてはまた事務局に考えてもらいたいと思う。他に意見等はあるか。

【中村真二委員】

今回これだけ若い人や外から来た人が新しい風を吹き込んでくれている。これは画期的なことである。皆さんにどの程度伝わって点数に反映されたのか分からないが、簡単に不採択としてしまえば、若い人はこの地域に残らないと思う。皆さんの画一的な決定が、この地域から若い人がいなくなることを加速させると思う。考え直していただきたい。

【小松光代委員】

若い方々の提案が不採択となり、残念な結果になったが安塚区の今年度の基準を今またもう一度見直すというのはいかがなものか。15点以上のものを審査する方がよいと思う。

【數井憲一会長】

私も自分が高い点数を入れた事業で15点に満たないものもあったが、それは皆さんの意見であるということで従わなくてはいけないと思うが中村委員、承知いただけるか。

【中村真二委員】

皆さんがこの地域に若い人はいなくていいという覚悟の元で、画一的に判断されるということであれば仕方がない。

【數井憲一会長】

何か意見等あるか。

【石田ひとみ委員】

極論だと思う。全員が若い人を受け入れていないというような言い方であるが、そうではないと思う。委員の平均点を算出した結果である以上、それを受けて今年度は不採択という形を取らざるを得ないと思う。

【中村真二委員】

本当に皆さんはそう思っているのか。

【石田ひとみ委員】

それでは新しく提案した団体は無条件で採択されるということか。

【中村真二委員】

無条件とは言っていない、考え直してくれと言っている。

若い方々がせっかく新しい風を入れてくれたのに、その大事さを考えて委員の皆さんが点数を入れたのか私は疑問である。

【石田ひとみ委員】

私は考えた上で点数を入れた。私が高い点数を入れた若い方々の事業は15点に満たなかった。しかし、それは委員の皆さんが平等に審査した結果であると思っているので、このまま進めていくことでよいと思う。中村委員の言い方だと、前回の採点は無効ということか。

【中村真二委員】

無効というわけではない。

【石田ひとみ委員】

中村委員の言い方だと無効という風に捉えられる。

【中村真二委員】

そういうわけではない。

【松野等委員】

中村委員の言おうとしていることは採点の段階で委員の皆さんは考えていると思う。そう信じているし、自分もそうしている。ただ、結果として15点に満たなかった以上は不採択として仕方がないのではないかと思う。

【中村真二委員】

大変失望したが、皆さんの意向がそうであれば、納得はできないが従いたいと思う。

ただ、先ほど石田委員が不採択団体へのフォローが必要であると述べたが、まさしくそうであると思うし、若い方々の話を聞く等のことを考えていただきたいと思う。ただ不採択という結果を伝えるだけだと、提案してくれた方はがっかりしてしまうと思う。

【數井憲一会長】

中村委員の意見は十分承知した。私も先ほど、不採択となった団体へはなんらかのフィードバックをしてはどうかと説明したつもりである。

それでは、9つの提案事業の採択額について、協議をしていきたいと思う。

まず、直峰町内会の提案事業、直峰町内会防災力強化事業について協議する。平均点が16.8点、事業費29万8千円に対して、補助希望額が29万円である。採択額について、いかがか。

【長谷川直樹委員】

採択額について協議するということがよいのか。

【數井憲一会長】

そうである。

【松苗正二委員】

発電機を2台購入するという提案であるが、発電機の使用目的が本来の目的と合致しないように感じる。災害時に施設に明かりを灯したいとか、炊飯器を使用できるようにしたいということについて、必要性を感じないように思う。

【數井憲一会長】

しかし、皆さんの平均点では15点を超える結果となっている。松苗委員の言いたいことは、発電機を2台でなく1台でもよいのではないかということか。

【松苗正二委員】

そうである。また、購入する1台も提案書にあるものでなく、移動を想定した小さい型の方がよいのではないか。私も調べたが、提案書にあるものより小さいタイプでも、さほど値段は変わらないと思う。

【數井憲一会長】

今後の協議の進め方についてだが、現在補助希望額が安塚区の配分額より64万円多

いため、1つ1つの提案事業の採択額について協議していき、減額していくという進め方でよいか。

【池田嘉久委員】

提案書にある2.5kVAの発電機とは、投光器や炊飯器の他に、テレビやこたつも使用できる能力があるのか。

【松苗正二委員】

2.5kVAとは、25アンペアの能力があるということである。例えば、炊飯器であれば、10～15アンペアほどの電力が必要になるので炊飯器1台と照明器具を2台程度使用できる能力がある。照明器具も、施設に明かりを灯すものであれば小さなもので済むので2、3台は設置できると思う。

【池田嘉久委員】

いずれにしろ、提案書にあるものであれば、投光器や炊飯器等を併用して使えるということか。

【松苗正二委員】

炊飯器は防災という観点では必要なのだろうか。災害時に、発電機で炊飯器を使ってご飯を炊くという状況があるだろうか。

【數井憲一会長】

いくつか出た意見をまとめると、補助希望額29万円のうち1台分15万円を減額するということであるがいかがか。

【松野等委員】

よいのではないか。

【長谷川直樹委員】

提案書には、板尾地区と松崎地区の集落開発センターに設置するとあるが、有事の際に避難する一時避難場所は松崎集落開発センターであり、最終的には市の指定避難所である安塚小学校へ避難することになっているため、松崎集落開発センターに長く留まるということはない。

【數井憲一会長】

ということは、採択額は1台分ということか。

【長谷川直樹委員】

そうである。

【數井憲一会長】

1台分15万円を減額するということでよいか。

(「よい」の声あり)

続いて、安塚スキークラブの提案事業、安塚 junior アルペンスキークラブ育成事業について協議する。平均点が15点、事業費93万4千円に対して、補助希望額が93万円である。採択額について、いかがか。

【松野等委員】

ワックス等は補助金の対象にすべきではないように感じている。また、プレゼンテーション時にはフラッグの分も少し減らしてもよいという担当者の説明であった。

【長谷川直樹委員】

プレゼンテーション時に、購入する備品の中で優先順位をつけるとしたらどうなるかという質問があった。説明では、旗門フラッグとチューンナップセットが優先順位では低かったため、その分を減額すると22万円ほど減額することになる。松野委員の言ったスキーワックスは2番目くらいに優先順位が高かったし、ワックスがあるとないのでは競技の順位に一番影響が出るとも担当者から説明があったので、優先順位の低いものを減額としたらどうか。

【數井憲一会長】

プレゼンテーション時の説明では、テーブルセットは補修すればまだ使えるという話があったし、旗門フラッグについても、減額されれば以前から使用しているものを使い続けるという話もあった。委員の皆さんの質問の中では、大人用のサマースキーセットを補助金で購入するのはいかがなものかというものもあった。

【小松光代委員】

大人用は中学生が履くのではなかったか。コーチ1人と中学生2人で大人用を3台購入するという話であったと思う。

【山岸重正副会長】

減額をするにあたって、提案団体に具体的に減額する経費を説明するのではなく、補助希望額に対し、採択額はこの額とするという説明の方がよいのではないか。

【松苗正二委員】

減額する経費の具体的な説明はしない。この場では採択額を決める際に、減額する経費について話をするが、結果採択された金額でどのように事業を実施するかはその団体次第であると思う。

【山岸重正副会長】

具体的に減額する経費について指摘するのではなく、採択された額のみを提示するだけでよいと思う。

【中村真二委員】

おそらく、山岸副会長と松苗委員は同じことを言っていると思う。ここで採択する額を決めて、9団体の事業について協議が終わった後、安塚区の配分額520万円より少なくなれば、減額した事業について再度協議をすればよいのではないか。

【松苗正二委員】

先ほど長谷川委員が言ったように、優先順位の低かったチューンナップセットと旗門フラッグの分を減額することでよいと思う。私の経験では、ワックスをかけるには、ワックステーブルがしっかりしていないとうまくかからないと思うので、遠征用ワックステーブルセットの分は減額しない方がよいと思う。

【數井憲一会長】

そうすると、どの部分を減額するのか。

【松苗正二委員】

旗門フラッグとチューンナップセットの22万4千円である。

【數井憲一会長】

それでは、その部分を減額することでよいか。

(「よい」の声あり)

続いて、おぐろ町内会の提案事業、自主防災資材の整備事業について協議する。平均点が16.5点、事業費76万8千円に対して、補助希望額が75万円である。採択額について、いかがか。

【石田ひとみ委員】

プレゼンテーション時に、担架やリヤカーの購入については、山場へ配置する際の試しの導入ということで平場へ配置するという説明をされたが、試しであれば、優先順位が低いのではないかと思う。

【松苗正二委員】

町内会長は試しの導入という言い方をされたが、協議の中では、山地の集落へもリヤカーを配置したいが、道が狭いこともあり、リヤカーではなく一輪車での対応になることが考えられるため、平場の集落へはリヤカーを配置するということであった。

【中村真二委員】

この事業は、購入する備品の種類が多いため、少し減額して、その中でやりくりしてもらってはどうか。

【數井憲一会長】

プレゼンテーション時は、複数年度で備品を整備するという説明であった。中村委員の言った方法も1つであると思う。

【松苗正二委員】

来年度は、また別のものを整備するという意味ではないか。

【數井憲一会長】

来年度に今回減額となったものも含めて提案されてはいかがだろうか。

【中島勝義委員】

おぐろ町内会の方に聞きたいのだが、集会所等でガスは使える状態なのか。

【松苗正二委員】

使える状態である。

【中島勝義委員】

ほかの集会所等ではガスは使えないのか。

【松苗正二委員】

事業提案では、集会所での使用を想定したものではなく、外で炊出しを行うことを想定してガスボンベを購入するのではないか。

【長谷川直樹委員】

先日、市から避難所の説明があった際に、3日分の食料は個人で用意してほしいという話があったが。その考えでいくと、ガス炊飯器等を整備する必要はないのではないかと思う。以前に採択されている団体とは整合がとれないのかもしれないが、炊飯器やガスボンベ等の経費は減額してはどうか。

【數井憲一会長】

確かに、過去に同じような事業が採択された経緯もある。しかし、事業として購入しなくても、一般家庭にあるガスボンベで代用できるのではないか。

【中島勝義委員】

大きなガスボンベは持ち運びできない決まりではなかったか。

【松苗正二委員】

確かあったとは思いますが、そもそも大きなガスボンベは重くて持ち運びは危ないのではないか。

【山岸重正副会長】

力がある人もしくは道具を使えば持ち運びできると思う。

【數井憲一会長】

災害時には、家庭からガスボンベを持ってきて調整器を付けることで対応できるのではないか。

ガスボンベを減額すると、ガスを使うコンロや炊飯器も減額となるのではないか。

【池田嘉久委員】

災害時は、集会所等へ避難すると思うが、消防器具置場に備品を配置するのはなぜか。

【松苗正二委員】

災害時に集会所が使えない場合に、外でテントを張り、炊出しをするという想定である。また、備品を他の場所へ持ち出しする際の拠点としても考えている。

【數井憲一会長】

小黒自治会だけで使うというわけではないということか。他の地域で使うことも想定しているということか。

【松苗正二委員】

そうである。

【數井憲一会長】

ガスボンベ、2重コンロ、炊飯器でいくらになるか。

【仮澤主事】

122,688円になる。

【數井憲一会長】

それでは、おぐる町内会については事業費から13万円の減額でよいか。

(「よい」の声あり)

続いて、安塚自然友の会の提案事業、郷土の自然・史跡探訪推進事業について協議する。平均点が16.3点、事業費35万円に対して、補助希望額が35万円である。採択額について、いかがか。

【國保信夫委員】

ガイドブックは全戸配布しても無駄にならないか。欲しい人のみに渡せばよいのではないか。

【石田ひとみ委員】

全戸配布ではなく施設等に配置するほか、観察会に参加した方、欲しいと要望のあった方に配付するのではなかったか。

【松苗正二委員】

プレゼンテーション時に聞き忘れたが、提案書にあるプリンタートナーは何に使う経費なのか。

【松野等委員】

ガイドブックの編集作業に使うと提案書には書いてある。

【數井憲一会長】

57,000円もトナーで使用するのか。

【松苗正二委員】

他にもA4のコピー紙が2,000枚とあるが、白黒で印刷しても2万円ほどしかかからないのではないか。

【松野等委員】

トラロープも本来のガイドブックを作るという目的とは異なるものであるし、直峰城跡保存会が主体となって実施するのだから減額してもよいのではないか。

【長谷川直樹委員】

ガイドブックは昨年度何部作成したか。

【松苗正二委員】

今年度の事業内容と同じく1,500部である。

【長谷川直樹委員】

置く場所も特に決めていないのではないか。

【數井憲一会長】

昨年度と同じ場所に配置するのだと思う。

【長谷川直樹委員】

1, 000部ほどに減らしてはどうか。

【松野等委員】

トラロープの分を減額してはどうか。

【石田ひとみ委員】

トナー代はどうか。

【數井憲一会長】

プリンタートナーとトラロープ分の減額でよいか。

【松苗正二委員】

事務局にお聞きしたいが提案書の提出を受けた際に内容について説明等はなかったか。

【仮澤主事】

プリンタートナーとA4コピー紙については、編集作業をする際に必要であると聞いている。また、ガイドブックには写真等も掲載するため、製本に至るまでの検討をする際にカラー印刷をしなければいけないことから、プリンタートナー代もこれだけ必要になるという説明であった。

【國保信夫委員】

カラー印刷をするのであれば、白黒でするのとでは値段が全く変わってくる。

【數井憲一会長】

今の説明を含めてどうか。

【國保信夫委員】

補助金として認めてもよいのではないか。

【秦克博委員】

トラロープの分は減額してもよいのではないか。

【中村真二委員】

トラロープの分を減額し、プリンタートナーについては9団体の事業の協議結果によってまた考えればよいのではないか。

【數井憲一会長】

トラロープの分を減額するということでよいか。

(「よい」の声あり)

【長谷川直樹委員】

松之山街道の呼び方についても、旧三国街道という呼び名もあるくらいの説明があってもよかった。地元への説明もなく、理解が得られていないと思うからその辺も考慮してほしい。

【數井憲一会長】

カッコ書きで三国街道の表記も加えるということによいか。

(「よい」の声あり)

それでは、トラロープ分を減額するということでよいか。

(「よい」の声あり)

続いて、安塚町内会の提案事業、安塚町内会活性化事業について協議する。平均点が16.7点、事業費92万6千円に対して、補助希望額が92万円である。採択額について、いかがか。特記事項を見ると、法被に関する意見が多いがいかがか。

【石田ひとみ委員】

帯や鈴は個人持ちでもよいのではないか。鈴の必要性があまり感じられないし、神輿を担ぐ人だけ派手になっていくように思える。

【長谷川直樹委員】

法被の数を30着から25着にして5着分減額してはどうか。

【數井憲一会長】

春祭りに着る法被と秋祭りに着る法被は違うのか。

【長谷川直樹委員】

同じである。

【小松光代委員】

過去に地域活動支援事業の助成を受けて法被を購入しなかったか。

【長谷川直樹委員】

それは、祭りに神輿担ぎで応援に来た人への貸出し用として購入したものであるもので、材質的にもあまりいいものではない。新しくて材質のいい法被は4着しかない。

【數井憲一会長】

秋祭りも区外から応援に来る方々はあるのか。

【長谷川直樹委員】

秋は神輿担ぎがないので、応援に来る人はいない。

【松野等委員】

10着分を減額し、9団体の事業の協議結果次第でまた調整してはどうか。

【長谷川直樹委員】

5着分の減額でよいのではないか。

【小松光代委員】

他の地域の祭りでは、法被や帯が消耗したら新しいのを買うために、町内でお金を徴収したりしてやっているようで、補助金を利用して購入することは疑問に思う。

【數井憲一委員】

春祭りに応援に来る人へ貸出しする法被が足りないのであれば、10着分の購入でよいのではないか。

【石田ひとみ委員】

応援に来る人へ貸出しする法被はあって、祭りを運営する実行委員の法被を今回揃えたいという事業内容ではないか。

【長谷川直樹委員】

そうである。

【數井憲一会長】

実行委員の方々は法被を持っていなかったか。

【長谷川直樹委員】

持ってはいるが、全員ばらばらの法被であるから、今回同じ法被を揃え、実行委員の士気を高めたいと思っている。

【數井憲一会長】

実行委員は何人いるのか。

【長谷川直樹委員】

25、6人である。

【數井憲一会長】

材質のいい法被が4着あるのだから、20着購入すれば十分ではないか。

【長谷川直樹委員】

実行委員全員分の法被がなければ祭りにならない。実行委員としては、実行委員の人数をもう少し増やしたいと考えているため30着分で提案している。そして、実行委員の士気を高め、祭りを盛り上げたいという思いでやっている。

【松野等委員】

10着分の減額ということで、他の事業の協議結果次第でまた考えるのでどうか。

【數井憲一会長】

それでよいか。

(「よい」の声あり)

続いて、安塚小学校PTAの提案事業、安塚夢と希望の体験プレゼント事業について協議する。平均点が16.7点、事業費72万3千円に対して、補助希望額が72万円である。採択額について、いかがか。

【長谷川直樹委員】

この時期になると、小・中学校の後援会費といって1件1,000円ほど集めているが、プレゼンテーション時の担当者の意気込みからすれば、そこからも少しお金を出してもらえばよいのではないか。ポスターやチラシ等の印刷・製本費の分は減額してはどうか。

【數井憲一会長】

地域活動支援事業は100%の補助であるから申請してきているのだろうし、それを別の資金があるから減額するという説明はできないと思う。あくまで、この額を採択するという説明しかできないと思うが。

【長谷川直樹委員】

それでは、1割減額ではどうか。

【山岸重正副会長】

事業の1割分くらいは提案団体の方に負担してもらったらどうか。

【松野等委員】

講師2人で40万円は高額であると思うし、1人分くらいにしてもらってはどうか。

【小松光代委員】

2人の講師で全く違う内容のワークショップをやると思うし、音響等の関係もあって

1つの事業として成り立っていると思うので、1人分減額とするのは難しいのではない
か。

【中島勝義委員】

後援会は後援会で運営しているから、後援会費から別の団体の事業費を支出することはできないと思う。

【數井憲一会長】

2つのワークショップの繋がりがよくわからないが、切り離して実施できるのか、それとも2つのワークショップがあつて事業が成り立つのか。

【中村真二委員】

切り離して実施できると思う。例えば、伊倉さんのペインティングの部分をカットしても、コンサートとしては成立すると思うし、リベットボタンさんの方をカットしてもペイントのイベントとして成立すると思う。しかし、提案団体としては、2つがあつてのストーリーとして考えていると思う。現在補助額の総額が安塚区の配分額を超えている以上、長谷川委員の言ったように、1割減額という形で、その中でやりくりしてもらおうという方がいいのではないか。

【數井憲一会長】

1割減額ということか。

【中村真二委員】

それくらいが妥当だと思う。

【長谷川直樹委員】

講師1人分を減額というより良いと思う。

【松苗正二委員】

提案書には当日のワークショップの実施時間が13時から16時とあるが、時間的に厳しいのではないか。今回は、ペイントかコンサートのどちらかのワークショップでよいのではないか。

【中村真二委員】

2つのワークショップを合わせたストーリーがあると思うので、安易に決められないと思う。

【松苗正二委員】

時間的に可能だろうか。

【中村真二委員】

自分が主催する立場であれば、厳しいと思う。

【石田ひとみ委員】

子どもの集中力が持たないのではないか。

【中村真二委員】

しかし、2つあってのストーリーであるからどっちかの分を減額とするよりは、何割かの減額をして採択するという説明の方がいいと思う。

【數井憲一会長】

1割減額するというところで、他の事業の協議の結果次第でまた考えるということでしょうか。

(「よい」の声あり)

続いて、安塚商工会の提案事業、「やすづか歩行天まつり」運営に係る補助事業について協議する。平均点が16.2点、事業費150万円に対して、補助希望額が70万円である。採択額について、いかがか。

【山岸重正副会長】

これも安塚小学校PTAと同じように補助希望額の1割を減額し、他の事業の協議の結果次第でまた考えるということでしょうか。

【數井憲一会長】

今ほどの意見について、1割減額でよいか。

(「よい」の声あり)

続いて、朴の木自治会の提案事業、沼木の里づくり推進事業について協議する。平均点が16.3点、事業費59万3千円に対して、補助希望額が58万円である。採択額について、いかがか。

【松苗正二委員】

昨年度の提案事業である駐車場とトイレの整備工事にボランティアで私は行ったのだが、ユンボで砂利を運ぶなどの作業は作業費として計上されていたが、駐車場を敷きならす作業等についてはすべて地域の方々のボランティアによって行われていた。今回の提案書にも記載されていない地域の方々のボランティアで賄われている経費もかなりあ

と思われる。地域として頑張っていると思うので、補助希望額どおりの額で採択とした方がいいと思う。

【數井憲一会長】

今ほどの意見について、どうか。

【長谷川直樹委員】

今年度の申請で事業は最後にするとプレゼンテーション時には言っていた。

【山岸重正副会長】

駐車場等の整備が最後なだけで、別の部分でまた申請があるのではないか。

【國保信夫委員】

プレゼンテーションでの町内会長の意気込みも含めて、減額せずに採択でよいのではないか。

【數井憲一会長】

他に意見等あるか。

【池田嘉久委員】

昨年度の町内会長・自治会長の意見交換会の中で、朴の木自治会では柳葉ひまわりの景観をつくるボランティアを募集したが応募がなかったという話があった。ボランティアの応募がなかったからやめるのではなく、それなら自分達でやろうという意気込みを応援してあげたいと思う。

【數井憲一会長】

今ほど2人から意見があったが、全額採択ということでよいか。

(「よい」の声あり)

続いて、行野自治会の提案事業、行野自主防災施設(消火栓器材格納庫)の整備事業について協議する。平均点が16.2点、事業費60万8千円に対して、補助希望額が60万円である。採択額について、いかがか。

【長谷川直樹委員】

その前に、確認したいことがある。提案書には、格納庫を1か所に2台ずつ配置するという内容であるが。基本的に初期消火の時に集落の人たちが使うためのものであって、消防団の人や消防署の人がその格納庫を使うことはほとんどないので、格納庫は1基の消火栓に対して1台でいいと思う。消火栓から火点まで距離が離れていたとしてもホー

スをたくさん繋いでしまえば、水圧が落ちることから初期消火にならない。

【中島勝義委員】

その格納庫を最初に設置した費用はどこが出したのか。

【數井憲一会長】

安塚町の時代に町が設置していると思う。

【中島勝義委員】

それでは、市が更新等すればよいのではないか。

【數井憲一会長】

消火栓の格納庫等の維持管理については、各町内会がするという市の方針がある。

【長谷川直樹委員】

私も昨年度確認したら、消火栓の移設等については市が実施するが、格納庫等の更新については各町内会でやってほしいという内容であった。

【中島勝義委員】

それで地域で更新するために地域活動支援事業で提案したというわけか。

【數井憲一会長】

昨年度、同じ内容で採択された事業もあるので前例がないというわけではない。

【中島勝義委員】

過去に行野で火災があった際、消火栓の水が使えなかったとか使ってはいけないとか話を聞いたが、実際のところどうなのか。

【數井憲一会長】

使っている途中から水が出なくなった。

【秦克博委員】

使わないでくれというのは、水道用の水が供給できなくなるから使わないでくれということである。

【池田嘉久委員】

随時浄水場から水は補給されているが、それが間に合わなくなって消火栓から水が出なくなるということである。

【數井憲一会長】

特記事項にも消火栓水量不足、ホース格納庫整備以前の問題とある。

【山岸重正副会長】

他の集落にも格納庫はあるのだから、今回採択としたら、他の集落が同じ内容で提案してきても採択することになるのではないかと。

【數井憲一会長】

プレゼンテーション時に質問した時には、減額された場合は一度に整備せず、複数年度に渡って整備すると言っていた。

【松苗正二委員】

行野という集落の現状として、消火栓のホースが格納庫1台分しかないと集落で火災があった際に対応ができない。初期消火のための消火栓であるので、初期消火ができる分のホースを配備できるよう格納庫を2台設置する必要がある。消火栓からの距離が遠いため、格納庫が2台必要であるとも集落の方から聞いている。

水圧については、7キロほどあるのか。

【長谷川直樹委員】

静水圧で3～4キロほどだと思う。水道管が75mmだとして、ホースを何本も繋いだ状態で高低差も考えると水圧はあまり期待できないと思う。また、集落で火災の際に消火栓のホースを使える人はいるのか。

【松苗正二委員】

消防団が使えると思う。

【長谷川直樹委員】

消防団は基本的には格納庫のホースを使うことはほとんどない。

【數井憲一会長】

多くの意見がでたが、減額するとしてどの程度減額するか。

【長谷川直樹委員】

消火栓1基につき格納庫1台でよいのではないかと。

【數井憲一会長】

消火栓1基につき格納庫が2台あるところはあまり見たことがない。

【池田嘉久委員】

消火栓1基につき格納庫が2台あるということは、消火栓と消火栓の間はかなり距離があるということか。

【長谷川直樹委員】

今の基準だと、消火栓から100mの間に格納庫が入ればよいのではなかったか。

【山岸重正副会長】

消火栓の格納庫にホースが何本くらい入ったか。

【長谷川直樹委員】

最低3本は入ると思う。

【池田嘉久委員】

1本20mだと、3本繋げても40m足りないということになるが、他の方向からもホースを伸ばすだろうし、対応はできるのではないか。

【數井憲一会長】

色々意見が出たが、1基につき1台ということによいか。

【松苗正二委員】

数を半分にするとしても4台分、12万円ほどしか減額はできないと思う。

【數井憲一会長】

4台分の設置費用についても減額となると思うが、いかがか。

【長谷川直樹委員】

格納庫の基礎工事分も減額するということか。

【松苗正二委員】

基礎工事は格納庫設置に必要であるため減額できないので、格納庫4台分だけの減額になると思う。

【數井憲一会長】

付帯意見として、備品の管理を徹底するよう指摘したいと思う。

【小松光代委員】

結局どの部分が減額となるのか。

【數井憲一会長】

格納庫4台分の減額によいか。

(「よい」の声あり)

今まで協議した結果、採択額の合計はいくらになるか。事業ごとに報告をお願いする。

【國保班長】

直峰町内会の補助額が14万円
安塚スキークラブの補助額が70万円
おぐろ町内会の補助額が64万円
安塚自然友の会の補助額が31万円
安塚町内会の補助額が62万円
安塚小学校PTAの補助額が65万円
安塚商工会の補助額が63万円
朴の木自治会の補助額が58万円
行野自治会の補助額が48万円である。

【數井憲一会長】

現在補助額の合計はいくらか。

【國保班長】

475万円で、安塚区の配分額に達するまで補助額に45万円の余裕がある。

【長谷川直樹委員】

安塚町内会の法被の減額分を10着から5着にはいかがか。

【數井憲一会長】

これからもう一度9団体の事業の採択額について協議する。

まず、直峰町内会の提案事業、直峰町内会防災力強化事業について、発電機を1台分減額して14万円の補助額であるが、このままでよいか。

(「よい」の声あり)

続いて、安塚jrアルペンスキークラブ育成事業について、93万円の補助希望額に対して、現在の補助額が70万円であるがどうか。

【松野等委員】

毎年提案している事業であるから、このままでよいのではないか。

【數井憲一会長】

このままでよいか。

(「よい」の声あり)

続いて、おぐろ町内会の提案事業、自主防災資材の整備事業について、75万円の補助希望額に対して、現在の補助額が64万円であるがどうか。

【松野等委員】

このままでよいのではないか。

【數井憲一会長】

このままでよいか。

(「よい」の声あり)

続いて、安塚自然友の会の提案事業、郷土の自然・史跡探訪推進事業について、35万円の補助希望額に対して、現在の補助額が31万円であるが、これについてはトラロープのみの減額であるし、このままでよいか。

(「よい」の声あり)

続いて、安塚町内会の提案事業、安塚町内会活性化事業について、92万円の補助希望額に対して、現在の補助額が62万円であるがどうか。

【國保信夫委員】

このままでよいのではないか。全額認めてしまうと他の町内でも祭りをする際に法被を購入する費用も全額補助を認めることになってしまう。

【長谷川直樹委員】

それが地域の活性化に繋がるのであればよいのではないか。

【數井憲一会長】

どの事業の補助額もこのままでよいのではないかという意見が多いため、今一度それぞれの提案事業の補助額について考えていただきたい。

【中村真二委員】

安塚小学校PTAの提案事業であるが、新しい事業であるし、若い方が実施しようとしている事業であるから、配分額に余裕があれば全額認めてあげてもよいのではないか。

【國保信夫委員】

この事業は今年度だけのものか。

【中村真二委員】

今年度だけなのか、来年度も継続した事業なのかはわからない。

【數井憲一会長】

今ほど全額補助を認めたらどうかという意見が出たがどうか。

【松苗正二委員】

全額認めるのはよいと思うが、事業当日のスケジュールに時間的な余裕がないと思うので、時間に余裕を持つよう付帯意見として付け加えてはどうか。

【石田ひとみ委員】

プレゼンテーション時の質問で、広告のチラシやポスターの作製費にお金をかけすぎており、手作りでチラシ等を作ってはどうかと聞いたが、そういった考えはなかったという提案団体の話であった。チラシ等の作製費がちょうど7万円であるので、その部分を減額した65万円で採択するというのではどうか。

【數井憲一会長】

他に意見あるか。

【松苗正二委員】

募集要項に、15点に満たなくても採択する場合があるという文言もあるので、私個人の意見としては、不採択となったものを復活させてもよいのではないかと思う。安塚歌の会 コーロ・コン・ブリオの提案事業についても、全戸配布するのではなく、希望者へCDを配布するくらいの内容で採択するという形でもよいのではないか。

【數井憲一会長】

それもいい意見であると思うが、まず9団体の事業について協議をし、それでも配分額に余裕があった場合であると思う。

【秦克博委員】

安塚町内会の提案事業の法被であるが、実行委員は40代の若い方々が地域を盛り上げようと頑張っている現状であるから、25着分くらい購入できるくらいの補助額にしてはどうか。

【中村真二委員】

法被の単価を安くして25着購入してはどうか。

【石田ひとみ委員】

鈴はいらないのではないか。

【松野等委員】

採択額は採択額であって、その中で法被の数や仕様など事業内容をどう変更するかは提案団体の自由であると思う。

【山岸重正副会長】

事務局にお聞きしたいが、神社の祭りを実施する際の法被の購入とは、宗教的な活動になるのか。

【市川所長】

非常に難しい問題であると思うが、例えば皆さんがクリスマスの際に行う行事等を宗教的な活動と思われるかどうかであると思う。安塚町内会の祭りは、宗教の普及等を目的として行っているのか。もしやっていないのであれば、それは一般的な町内会が行う祭りであると捉えてよいと思う。

【數井憲一会長】

安塚町内会の祭りはあくまでも町内会の祭りであり、宗教とは関係ないものであると思う。

【長谷川直樹委員】

この祭りは町内会の住民だけでなく、地域の企業からも応援いただいで実施している祭りであるので、このまま祭りを続けるためにももう少し補助額を上げてはいかがか。

【數井憲一会長】

発言のあった意見も含めて、できれば安塚町内会以外の委員からの意見が聞きたい。

【國保信夫委員】

補助額を増やすべきではないか。

【中島勝義委員】

町内会からもっと資金を工面することはできないのか。

【長谷川直樹委員】

町内会では、貸出しした法被のクリーニング代等見えない部分で資金を工面している。

【小松光代委員】

ただ提案書を見るに、法被1着の単価が非常に高いと思う。

【中村真二委員】

長谷川委員が安塚小学校PTAのプレゼンテーション時に、アーティストの講師謝金が高額であるからもっと安くしてできないかという質問をしていたが、それと同じことが安塚町内会の法被にも言えると思う。法被ももっと安いものでよいのではないか。

【小松光代委員】

法被の数で補助額を決めるのではなくて、今補助額として協議した62万円の中でや

りくりをしてもらえばよいと思う。

【數井憲一会長】

安塚町内会の補助額については、62万円のままで、その中で法被の質を下げる等してやりくりをしてもらうことでよいか。

（「よい」の声あり）

それでは、行野自治会の提案事業、行野自主防災施設（消火栓器材格納庫）の整備事業について、60万円の補助希望額に対して、現在の補助額が48万円であるがどうか。

【松野等委員】

全額補助してはどうか。

【山岸重正副会長】

限界集落であるし、集落で資金を工面しようとしてもできないと思う。

【長谷川直樹委員】

必要性を考えれば、全額認めてあげた方がいいと思う。

【數井憲一会長】

全額補助でよいか。

（「よい」の声あり）

配分額に達するまでいくら余裕があるか。

【長谷川直樹委員】

33万円ではないか。

【數井憲一会長】

何か意見等あるか。

【中村真二委員】

安塚スキークラブの提案事業について、子どもたちの成長に係る事業であるし、もう少し補助額を増やしてはどうか。

【數井憲一会長】

現在70万円の補助となっているが、どうか。

【中島勝義委員】

採点結果一覧の特記事項にもあるが、毎年提案されている事業であるし、全額補助するというのは難しいのではないか。

【松野等委員】

80万円の補助額で認めてはどうか。

【數井憲一会長】

今ほど80万円という意見が出たが、80万円の補助額としてよいか。

(「よい」の声あり)

配分額に達するまでまだ23万円余裕がある。

【小松光代委員】

山の上コンサート実行委員の提案事業は、15点未満で不採択となったものの中では一番15点に近いが、復活させるにしても70万円の補助希望額に対して23万円の補助では事業として実施できないかもしれない。

【山岸重正副会長】

おぐろ町内会の減額分を補助額として認めてはどうか。

【數井憲一会長】

今ほどの意見について、いかがか。

【長谷川直樹委員】

補助額を満額認めてはどうか。

【國保信夫委員】

私も賛成である。

【數井憲一会長】

満額の75万円補助としてよいか。

(「よい」の声あり)

【長谷川直樹委員】

配分額に達するまであといくら余裕があるか。

【數井憲一会長】

12万円である。

【山岸重正副会長】

安塚小学校PTAの提案事業について、全額補助を認めてはどうか。

【長谷川直樹委員】

賛成である。

【數井憲一会長】

子どもの成長に係る事業であるので、全額補助を認めてよいか。

（「よい」の声あり）

配分額に達するまであと5万円である。

補助額を増額するのであれば、安塚町内会か安塚商工会の事業であると思うがいかがだろうか。

【松野等委員】

安塚商工会の提案事業について補助額を増額でよいのではないか。

【數井憲一会長】

安塚商工会の提案事業を5万円増額でよいか。

（「よい」の声あり）

これで配分額の520万円に達したのではないか。

【市川所長】

520万円に達した。

【數井憲一会長】

それでは、1つ1つ確認していく。

まず、直峰町内会の提案事業について、補助額が14万円である。

付帯意見について、付けないこととしてよいか。

（「はい」の声あり）

続いて、安塚スキークラブの提案事業について、補助額が80万円である。

付帯意見について、付けないこととしてよいか。

（「はい」の声あり）

続いて、おぐろ町内会の提案事業について、補助額が満額の75万円である。

付帯意見について、付けないこととしてよいか。

（「はい」の声あり）

続いて、安塚自然友の会の提案事業について、補助額が31万円である。

付帯意見についてはいかがか。

【松野等委員】

ガイドブックの中に松之山街道の表記を入れる際は、旧三国街道と表記を入れてもら

えないだろうか。

【小松光代委員】

長年親しんできた呼び名であるから、入れてもらいたい。

【松野等委員】

カッコ書き程度でよいので、入れてもらったかどうか。

【數井憲一会長】

できれば入れて欲しいということか。

【石田ひとみ委員】

他にも、安塚区民への松之山街道の説明をしてはもらえないだろうか。

【數井憲一会長】

それは地域活動支援事業の報告会でよいのではないか。

それでは、付帯意見については、旧三国街道の表記をカッコ書き程度でよいので入れて欲しいというものでよいか。

（「はい」の声あり）

【市川所長】

旧三国街道という表記を入れて欲しいという要望があったということでよいか。

【數井憲一会長】

そうである。

続いて、安塚町内会の提案事業について、補助額が62万円である。

付帯意見について、付けないこととしてよいか。

（「はい」の声あり）

続いて、安塚小学校PTAの提案事業について、補助額が満額の72万円である。

付帯意見についてはいかがか。

【石田ひとみ委員】

なるべくポスター等は手作りで実施してもらおうというのはどうか。

【數井憲一会長】

ポスター等の製作費を含んだ補助額として満額認めている以上、難しいのではないか。

【山岸重正副会長】

当日のスケジュールに余裕を持ってもらうというのはどうか。

【市川所長】

当日の内容が盛りだくさんであるので、時間に配慮してほしいということか。

【山岸重正副会長】

そうである。

【數井憲一会長】

付帯意見については、それでよいか。

（「はい」の声あり）

続いて、安塚商工会の提案事業について、補助額が68万円である。

付帯意見について、付けないこととしてよいか。

（「はい」の声あり）

続いて、朴の木自治会の提案事業について、補助額が満額の58万円である。

付帯意見について、付けないこととしてよいか。

（「はい」の声あり）

続いて、行野自治会の提案事業について、補助額が満額の60万円である。

付帯意見についてはいかがか。

【山岸重正副会長】

備品管理を徹底してもらおうというのはどうか。

【數井憲一会長】

今ほどの意見について、付帯意見としてよいか。

（「はい」の声あり）

以上で全9団体の協議が終了したので、事務局から今までの協議結果についてのまとめの報告をお願いします。

【仮澤主事】

直峰町内会は、補助額14万円で付帯意見なし。

安塚スキークラブは、補助額80万円で付帯意見なし。

おぐろ町内会は、補助額75万円で付帯意見なし。

安塚自然友の会は、補助額31万円で付帯意見については、旧三国街道の表記を入れて欲しいという要望する。

安塚町内会は、補助額62万円で、付帯意見なし。

安塚小学校PTAは、補助額72万円で、付帯意見については、当日のスケジュールについて、時間に余裕を持って実施してほしいということ。

安塚商工会は、補助額68万円で、付帯意見なし。

朴の木自治会は、補助額58万円で、付帯意見なし。

行野自治会は、補助額60万円で、付帯意見については、備品の管理を徹底するということ。

【數井憲一会長】

以上で、協議事項（1）平成30年度上越市地域活動支援事業（安塚区）の審査について終了するが、何か意見等あるか。

（「なし」の声あり）

続いて、協議事項（2）安塚区地域協議会としての審議内容について、事前の提出があったか事務局に確認する。

【大橋次長】

事前の提出はない。

【數井憲一会長】

この場でもよいが、委員の提案等を求める。

（「なし」の声あり）

続いて、4の報告事項について何かあるか。

【市川所長】

昨年火災があった雪だるま物産館の雪室であるが、連休明け頃に解体工事の業者が決まり、現在解体に向けて進めているところである。また、その後であるが、新しい雪室を作るということで場所等を他の団体と検討しながら進めていくという状況である。

【數井憲一会長】

他にないか。

（「なし」の声あり）

続いて、5のその他だが、何か意見等あるか。

【山岸重正副会長】

昨年の災害で被害を受けた場所の修復がまだ済んでいないところがある。今後どんなスケジュールで進めていくか教えていただきたい。

【市川所長】

今年度は現場に出向きつつ、町内会長の意見等も聞きながら進めていきたいと浦川原の方から聞いている。いずれにせよ、建設グループへ伝える。

【數井憲一会長】

他にないか。

(「なし」の声あり)

- ・ 次回の地域協議会開催日（6月26日）を確認
- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

安塚区総合事務所総務・地域振興グループ TEL：025-592-2003（内線23）

E-mail：yasuzuka-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せて御覧ください。